

アジアの観光地「唐津探る」

市とNPO法人がシンポ

「独自の魅力PRを」

唐津市



アジアからの観光客誘致について
基調講演をする中村悦幸氏

唐津市に中国、韓国などからの観光客を呼び込む「唐津」アジアの奥座敷プロジェクトを推進するシンポジウムが二十日、唐津市の高齢者ふれあい会館・りふれであつた。講演やパネル討論を通して、「アジアの観光地」としての唐津の将来像を探った。

シンポジウムでは、二〇一〇年までに、年間の訪日観光客数一千万人到達を目指す、国土交通省の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」実施本部事務局の中村悦幸事業部長が基調講演。急増する中国からの観光客を例に「昨年、日本での桜ツアーが大人気だった。今

唐津の地理的特性を生かして、隣国からの観光客を増やそうと、検討委員会を設けて実践調査を進めている。

の中国人は「旬」なものに惜しみなく対価を払う。唐津も独自の魅力を明確にアピールすることが大事だ」と強調した。

また、従業員が中国語であいさつすることなどで、観光客が増加した宿泊施設を紹介。「地元の人たちが工夫しなくては。唐津のように、外国人客の誘致に地域が取り組む例は珍しく、応援したい」と激励した。

パネル討論では検討委員会のメンバー四人がパ

ネリストを務めた。千相哲・九州産業大助教授は、唐津を訪れた韓国人のアンケートで「福岡からの電車の乗り換えが分かりにくい」などの声が寄せられたことを挙げ、案内板など身近な視点からの改善を求めた。

唐津ボランティアガイド副会長の大河内はるみさんは「観光客の好みに合わせ、案内する観光地を前もって調べておくことも大切です」と語った。

唐津のブランド化を 観光戦略など議論

シンポジウム



観光地としての唐津のブランド化の進め方を話し合ったパネルディスカッション
＝唐津市の「りふれ」

アジアから唐津市へ観光客を誘致しようと、市などが取り組んでいる「唐津アジアの奥座敷プロジェクト」について市民とともに考えるシンポジウムが二十日、同市の「りふれ」であった。先進地の事例を紹介しながら、観光・唐津のブラン

ド化の進め方について話し合った。国の観光客誘致戦略「ビジット・ジャパン・キャンペーン」実施本部事務局の中村悦幸事業部長が基調講演。「この時期にしか見られない、食べられないなど、旬のもののアピールすべき」と

同プロジェクトは、市とNPO「ネットワークステーションまつろ」が実施主体となり、昨年十月に検討委員会が発足。外国人へのアンケートの結果やシンポジウムの議論などを踏まえ、二月に行う三度目の委員会で報告書をまとめる。(江島)

誘致のポイントを示し、呼子イカなど唐津の魅力を具体化して売り出すようアドバイスした。パネルディスカッションでは「アジアの北歐」としてイメージ化を図り、台湾にターゲットを絞って成功した北海道の事例などを紹介。ホスピタリティー(もてなし)やホームページなどでの情報発信の重要性が指摘された。